

## [総合的な学習の時間]

# 地域を大切に作る心情を育てる総合的な学習の時間の一考察

－ 『かせぐ』をキーワードにした3年「I LOVE 塩沢」の実践から－

小島 誠\*

### 1 はじめに

本校の3年生は、素直で明るく、好奇心旺盛で、「何でもやってみたい」という気持ちをもっており、やりたいことを見つけ、集団としての意欲が高まったときには大きなエネルギーを発揮する。運動会や文化祭などの行事では、「みんなで力を合わせてがんばろう、盛り上がろう」という呼びかけに呼応し、一生懸命取り組んでいる。総合的な学習の時間（以下、総合学習）は、体験を通して自ら課題を見つけ、協力して解決し、生きる力を育む教科であると考えている。正に、3年生のエネルギーを発揮させることのできる絶好の場である。

本校3年生は、総合学習において、地域のよさを知る活動に取り組んでいる。一昨年度も3年生を担当し、地域のよさを知る活動に取り組んだが、終始教師主導で活動を進めることになり、結果として、「楽しく見学したり、活動したりすることができた」という段階で終わってしまい、「地域のよさを知り、大切に思う」までには至らなかった。要因として挙げられるのは、

- (1) 塩沢のよさを自分たちで探す、見つける活動が不足していた。
- (2) 学級・学年集団として、力を合わせ、大きな成果を上げる(上げたと感じさせる)活動が仕組みれていなかった。
- (3) 保護者や地域を巻き込み、活用していく工夫がなされていなかった。
- (4) 分かったことや考えたことを記録し、それをもとに話し合っって課題を見つけたり、考えをふくらませたり、自己や集団としての成長・高まりを実感させる工夫がなされていなかった。

などである。それらの反省をもとに、本実践では、『かせぐ』をキーワードとして活動を構想し、実践を積み重ねていくこととした。

### 2 活動構想の視点

#### (1) 地域の特性

塩沢は、南魚沼市の南部に位置する。自然豊かな土地にあり、特産物の第一に挙げられるのが、魚沼産コシヒカリである。地域住民は「塩沢産が最もおいしい」と自負している。また、塩沢紬をはじめとした織物は、伝統的な工芸品である。巻機山、魚野川、登川といった名峰・清流があり、観光も大切な基幹産業となっている。全国有数の豪雪地であり、スキー産業でも、全国に名を轟かせている。著書『北越雪譜』により、雪国の生活を江戸に広めた江戸時代の著名人「鈴木牧之」や上越線の開通に尽力した「岡村貢」など、地域の発展に貢献した人材もいる。

地域の誰もが自負しているもの“じまん”が多く存在する地域であるので、総合学習で取り扱うことのできる学習素材は、大変豊富である。

#### (2) キーワードは『かせぐ』

本実践の活動を構想する際、一昨年度の反省をもとに、どうしたら子どもたちが自らの体験を通して、この塩沢を大切にしようとする心情を高めることができるかを考えると、『かせぐ』という言葉がキーワードとした。『かせぐ』という言葉には「もうける」という意味の他に「精を出してよく働く」という意味がある。地域でも、「一生懸命作業する・活動する」という意味で他者の努力や苦勞を認め、讃える際に日常的に使用されている。『かせぐ』総合学習とは、子どもたちが、体験に十分に浸り、没頭し、力を合わせて、自分の思いや願いを叶えていくことと捉えた。塩沢の“じまん”を体いっばいに感じ、存分に味わい、全身を使って表現することで、自分が生まれ、育っている地域のよさを実感することができるはずである。教師が個々の体験を丁寧に価値付けていくことによって、地域を大切

\* 南魚沼市立塩沢小学校

に思う心情を育てることができると思われる。

#### ① 『足でかせぐ』

本実践においては、『足でかせぐ』つまり、自分の足を使って何度も見学や体験に出かける活動を重視した。自分の『足でかせぐ』ことによって、普段何気なく通り過ぎてきた塩沢のまちをじっくり観察したり、新たな視点で見つめたりして「自分たちで探した、見つけた」と感じる体験をさせることができる。この繰り返しにより、身近なところに塩沢のよさがあり、それらのよさが、自分の実生活とつながっていることを実感することができると思ったからである。

#### ② 『集団でかせぐ』

本校3年生は、やりたいことを見つけ、めあてを明確につかんだときに大きなエネルギーを発揮する。総合学習は、正にそのような場を仕組むことが可能である。ややもすると3年生は、わがままや身勝手な行動が見られ、集団としてまとまりにくい傾向があるが、だからこそ、集団として取り組むことの素晴らしさを味わわせることが大切である。みんなで力を合わせて調べる、体験する、考えることなどを通して、「一人一人のできることは小さいが、みんなで力を合わせたらこれだけ大きな活動ができた」と実感させたい。集団で取り組んだ成果は大きな成就感となり、そのことは、より一層塩沢のよさを意識し、「もっと活動したい」「次はこうしたい」という意欲を高めることにつながると考える。

#### ③ 『親子でかせぐ』

3年生の総合学習では、地域に密着した学習を進めていく。地域への「入り口」は、やはり、家庭であり、地域をよく知る先輩としての親の存在は、貴重な人材である。親が自分の知っていることを子どもに伝えたり、興味をもって一緒に調べたり、子どもと同じ気持ちで体験したりすることは、子どもの活動意欲を高め、学習の効果を上げる上で重要である。本実践を構想するにあたり、家庭や地域に働きかけたり、共に体験したりする活動を意図的に仕組んでいく。このことから、家庭で塩沢のよさが話題となり、家族が小さいときに経験したことや今の思いを子どもに伝え、また、逆に子どもたちが家族に働きかけて意識を高める役割を果たすことができる。

#### ④ 『手でかせぐ・口でかせぐ』

『手でかせぐ』とは書く活動を、『口でかせぐ』とは話す・話し合う活動を充実させることである。総合学習において、書く活動や話す・話し合う活動は、重要である。それは、体験をもとにしたいろいろな感じ方や意見の違いを確かめたり、子どもの思いや願いを醸成・顕在化・連続化をしたりすることができるからである。書く活動や話す・話し合う活動を大切にすることで、個々で目指すもの、集団で目指すものを明確にし、共に高まろうとする気持ちを育てることができると考え、本実践においてもそれらの場面を多く設定することにした。活動の後は、とにかく自分の思いや考えを書くことを習慣にする。これを書きためていくことにより、塩沢に対する自分の思いがどのように高まってきたかを捉えることができる。本校は、昨年度までの3年間、新潟県小学校教育研究会より特別活動の研究指定を受け、話し合い活動や話し合いを支えるための書く活動について実践を重ねてきた。本実践でも、その手法を活用した。

#### (3) 『かせぐ』を機能させるための教師の構え

ただ体験しただけでは、地域を大切にできる心情を育てることはできない。子どもが「かせいだこと」を教師が価値づけしていく必要がある。体験は個々によって感じ方が違うものである。それぞれの感じ方や考えを教師が丁寧に価値づけることで、『かせぐ』は機能し、地域のよさを実感し、大切に思う心情を育てることができる。本実践では、以下の3点の価値づけを大切にしたい。

- ① 一人一人の子どもの体験の価値づけ
- ② 学級・学年集団としての体験の価値づけ
- ③ 親や地域の人からの評価による活動の価値づけ

### 3 活動の実際（「3年 I LOVE 塩沢」の実践から）

2で述べたような活動構想をもとに、以下のように年間の活動を計画した。

子どもが、主体的に活動していくためには、まず、「こんな活動をしたい」「こんなふうに活動したい」という思いを引き出すための活動が必要である。そこで、はじめに自分たちが今知っている塩沢の“じまん”ベスト5を決める活動を設定した。この活動において、その後の活動を支えていく基盤となる「自分が生まれ、育っているまちー塩沢ー」についての意識をもたせ、「詳しく知りたい」「関わりたい」という願いをもたせたい。

活動を進めるにあたり、社会科「見つめてみようわたしたちのまち」の学習や国語の書く活動、話す・聞く活動との関連を十分に図る必要がある。また、教師の願いはしっかりとしたもちながらも、子どもの意識の流れに沿って、柔軟に活動を組み立てていくことを大切にしたい。

月	3年「I LOVE 塩沢」の主な活動	内は関連する教科・活動				
4	○オリエンテーション (2)					
5	○わたしが決める 塩沢の“じまん”ベスト5 ○みんなが考えた塩沢の“じまん”ベスト5をまとめてみよう	社会科「まちたんけんをしよう」 ・まち調べ ・まちたんけん				
6	○地域の人にも“じまん”を聞いてみよう。 ・地域の人にも聞いてみれば、もっと塩沢のことを知ることができる。 ・インタビューの仕方を身に付けて、1人が、5人の地域の人に聞いてみよう。					
7	○地域の人に聞いた塩沢の“じまん”をまとめよう。 ○“じまん”討論会を開こう。	P T A 学年行事 「塩沢たんけんウォークラリー」				
9	○塩沢の“じまん”を実際に調べてみよう。 ○詳しく調べよう					
9	<table border="1"> <tr> <td>〈鈴木牧之〉 ・いつ頃生まれてどんなことをしたのかな？ ・牧之記念館や公民館に行って聞いてこよう。</td> <td>〈織物〉 ・塩沢の織物ってどんな種類があるんだろう。 ・どうやって作っているんだろう。</td> <td>〈自然〉 ・魚野川ってどこからどこまで続いているのかな？ ・どんな山があるのかな？</td> <td>〈食べ物〉 ・塩沢のお米は、どうしておいしいのかな？ ・他のコシヒカリと比べてみたいかな？</td> </tr> </table>	〈鈴木牧之〉 ・いつ頃生まれてどんなことをしたのかな？ ・牧之記念館や公民館に行って聞いてこよう。	〈織物〉 ・塩沢の織物ってどんな種類があるんだろう。 ・どうやって作っているんだろう。	〈自然〉 ・魚野川ってどこからどこまで続いているのかな？ ・どんな山があるのかな？	〈食べ物〉 ・塩沢のお米は、どうしておいしいのかな？ ・他のコシヒカリと比べてみたいかな？	
〈鈴木牧之〉 ・いつ頃生まれてどんなことをしたのかな？ ・牧之記念館や公民館に行って聞いてこよう。	〈織物〉 ・塩沢の織物ってどんな種類があるんだろう。 ・どうやって作っているんだろう。	〈自然〉 ・魚野川ってどこからどこまで続いているのかな？ ・どんな山があるのかな？	〈食べ物〉 ・塩沢のお米は、どうしておいしいのかな？ ・他のコシヒカリと比べてみたいかな？			
10	○中間発表会をしよう。(2) ・クイズにまとめて、発表しよう。					
11	○まとめたクイズをさらによいものにしよう。 ・足りないところはなかったかな。 ・もっと興味をもってもらうためにはどんなことが必要かな。					
12	○もっと詳しく調べて、塩沢クイズを完成させよう。 ・まとめたクイズをいろいろなところで紹介しよう。					
1	○本発表会をしよう					
2	○1年間を学習を振り返ろう！					

子どもの意識の流れによって、活動は柔軟に変更していく。

### (1) “じまん”調べ — 『集団でかせぐ』—

春、暖かくなると子どもたちは、校外に出たがる。そこで、社会科「まちたんけんをしよう」の学習で校外を散策した。公園やお寺・神社、公民館、駅、商店街などを巡る中で、子どもたちは、地域に興味を持ち始めるので、自分が考える「塩沢の“じまん”ベスト5」をまとめてみることにした。多くの子どもが時間をかけずに5つの“じまん”を書くことができた。塩沢産コシヒカリや山・川といった自然、山菜、スキー場などといった誰もが思い浮かべる代表的な事物が出される一方で、1、2個しか思い浮かばない子どもやコンビニエンスストアやチェーン店などを“じまん”に挙げる子どもが少なからずいるなど、塩沢のよさに十分気付いていない・知らないという一面も見られることとなった。



写真1 塩沢の“じまん”学年発表会

ただし、友達の考えを聞いたり知らないことを質問したりする中で、「そうか、それがあったか」とか「そんなものがあつたのか」といった感想が聞かれた。また、みんなの力を合わせることで、互いの足りない部分を補うことが

できることを実感し、協力すれば大きな活動を行うことができることを感じ取っていた。学級・学年の発表会においても、そのような発表がなされたが、ベスト5をまとめる活動を通して思ったことを話し合う中でA子は、次のように感じていた。(資料1)

学年発表会を終えての感想 6月 15日

もっと塩沢についてばっちりになるように  
 いろいろな人にきいたり自分でしらべた  
 りしたいと思ひます。でもきょうの発表会で  
 も塩沢ことがたたりました。

資料1 学年発表会後のA子の感想

こうした気付きがもととなり、次の活動に発展していった。

(2) “じまん”インタビュー

— 『集団でかせぐ』『親子でかせぐ』 —

“じまん”調べは、家庭・地域に場を移すことになった。ここで教師は、次のことを願った。

- ・多くの大人に塩沢の“じまん”を聞くことで、今まで知らなかったことに気付くこと
- ・親の協力を得て活動することで、家庭での話題とすること
- ・「みんなでインタビュー活動に取り組むことで、力を合わせて活動することのよさを実感すること

とした。結果として、82人の子どもで、400人ほどの地域の方へのインタビューを行うことができた。インタビューをし、学級・学年での発表会を終えると、B男は以下のように感想を述べた。

ぼくは3人にしか聞けなかったけど、3年生全部で400人近くの人にインタビューができたのでびっくりした。みんなで協力すれば、すごいパワーになることが分かってよかった。

また、「こんなにたくさんさんの“じまん”があるとは思わなかった」「地域の方は、いろんなことを自慢に思っていることが分かった」など、ねらいに近付いていることを伺わせる感想が聞かれた。(資料2)

(3) “じまん”討論会 — 『手でかせぐ・口でかせぐ』 —

“じまん”インタビューを終え、学年発表会を行ったところ、「塩沢の“じまん”を知り尽くした」といった低次の課題追求で安定してしまっている子どもたちが多くいた。そこで、その状況を打破するために『手でかせぐ・口でかせぐ』活動が必要と捉え、“じまん”討論会を行うことにした。

C男の“じまん”インタビュー  
 学年発表会後の感想メモ

インタビューをたくさんしたので、塩沢の“じまん”がばっちり分かった。

“じまん”討論会

C男：インタビューをたくさんしたので、塩沢の“じまん”がばっちり分かった。  
 D男：塩沢の“じまん”に詳しくなった。  
 E子：でも、私は牧之記念館には行ったことがないから、分からないところもたくさんあるよ。  
 F男：ぼくも、行ったことはあるけどよく見てないから、どんなものがあるか分からない。  
 C男：そう言われると、ぼくもまだ分からないことがいっぱいあるな。

C男の“じまん”討論会  
 後の感想メモ

インタビューをして、ばっちりだと思っていたけど今日話し合ってみて、まだ分からないことがたくさんあることに気付いた。自分で実際に行ってみて、詳しく調べたいと思った。

地域の人に聞く!

じまんしたい塩沢の「場所・もの・行事…」

答えてくれた人 しょう子 さん  
 2組4番 名前

えらんだもの	コメント
北越雪譜 鈴木牧之さん	雪国に生かされた塩沢の歴史がここにあり、そのように生きて来た人からこの本を讀み、雪国の生活を知ることができ、とても楽しかったです。雪国の人と暮らすことがとてもいいなと思いました。
金城山 巻機山	家と山と金城山と巻機山が見える。山を歩くと表情が違って、うしろの景色も違って、とても気持ちいいなと思いました。
塩沢織物 と 雪さらし	結構昔の織物にたて織りや平織りをしていて、塩沢織物や雪さらしは昔ながらの高級品であることが知りました。冬の晴れた日の雪さらしと良い風物史です。
塩沢こしめり	日本一おいしい米の産地、塩沢。春米をばたいた団圓は、極上な味。秋には、豊作と無病の福。毎年、穀蔵中に新米を送っています。
住吉神社の 夏まつりと 寒祭り	小さい子供から大人まで楽しむ祭り。特に小学生のお祭りの音楽の音が好きです。寒祭りは塩沢に来て初めて体験しました。家ごとつたばかりの新しい外に、お祭りにかかると、どうしてもつめる必要はありません。ご協力いただけるのはいいですね。

資料2 “じまん”インタビュー



『口でかせぐ』活動を通して、C男らのように塩沢の“じまん”がばっちり分かったと考えていた子どもたちも、自分たちが低次の追求で満足していたことに気付き、新たな意活動欲をもつこととなった。また、『手でかせぐ』（感想を書きためる）活動を通して、自分の考えを振り返り、思いが深まったことに喜びを感じていた。この討論会では、班長を司会として、班ごとに話し合いを進め、班で話し合われたことを学級全体で発表し合った。また、予め書いたメモをもとに話し合い、感想をまとめた。これは、昨年度までの特別活動研究で得た手法を生かしたものであり、この話し合いが、学級全体の更なる活動意欲を生み出すことにつながった。

#### (4) 塩沢たんけんウォークラリー — 『足でかせぐ』『親子でかせぐ』 —

本校では、学年ごとにPTA行事を行っている。今年度の3学年PTA行事を決める際、保護者に、総合学習で地域の“じまん”を調べており、子どもたちは現在塩沢の“じまん”を詳しく調べたいという思いをもっていることを説明し、親子で調べたり見学したりする場を設定したいと提案してみた。すると、「塩沢の名所を巡るウォークラリーがよいのではないか」という意見が出され、保護者全員の賛成で実施することとなった。PTA役員が、コースや見学させたい場所を考え、下調べ・事前見学をして、準備を進めた。当日は快晴の天候の中、「探検するぞ」という意欲満々に親子で塩沢のまちに繰り出した。子どもたちに自分の知っていることを嬉々として伝える親の姿が多く見られた。また、子どもの中には、それまでの総合学習や社会科の学習で見たり調べたりしたことを親に教えながら道案内する姿も多く見られた。役員はもとより、参加した保護者の多くが、塩沢の“じまん”を初めて知ったり、再確認したりしたことに満足感をもっていた。また、親子で一緒に調べることができたことの意義を実感していた。子どもたちの感想からも、学習したことが活かされていたり、更なる学習意欲につながっていたりすることを伺うことができた。(資料3、写真2)



写真2 塩沢たんけんウォークラリー

- ・子どものころから塩沢に住んでいましたが、名所を知っていてもなかなか入る機会がなく、私にとってもいい経験になりました。また、子どもたちもはりきって案内してくれ、とても頼りになりました。歩きながら、私が子どものころの塩沢の様子を話すと、子どもはますます興味をもってくれたようで嬉しくなりました。
- ・「社会」や「総合」のまちたんけん、まち自慢にリンクした内容で、素晴らしい学年行事だったと思います。長恩寺の境内に初めて足を踏み入れて大いちょうの木に感動しました。大人用の問題も用意されていてちょっとした“脳トレ”になりました。

資料3 塩沢たんけんウォークラリー 保護者の感想

#### (5) “じまん”たんけん — 『足でかせぐ』『手でかせぐ』・『口でかせぐ』 —

“じまん”討論会やウォークラリーを通して、ますます塩沢に興味をもち始めた子どもたちからは、しきりに「もっとじまん探しに出かけたい」という言葉が聞かれるようになった。そこで、牧之記念館に出かけることとなった。

地域の著名人鈴木牧之に関すること、昔の道具、塩沢紬をはじめとした織物のことなどが展示されている鈴木牧之記念館に実際入ってみると、興味をもって展示物に見入り、解説を何とか読もうとする姿が見られた。見学時間は、1時間ほどであったが、「もっと時間がほしい」「まだ調べたいことがたくさんある」といった、前向きな発言が多く聞かれた。実際牧之記念館は、再度見学に出かけた。これらの体験を経てG男は、以下のように感想を述べている。

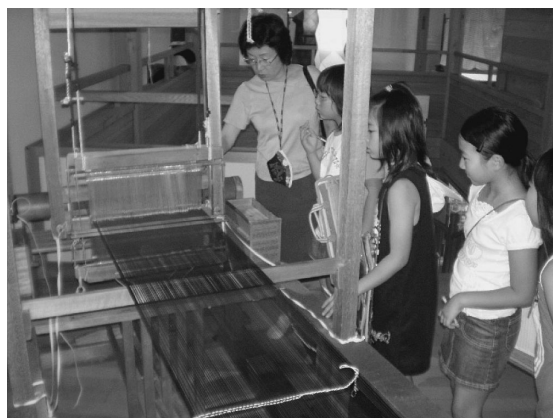


写真3 牧之記念館見学

牧之記念館に見学に行ってもよかった。ふれあい公園（牧之記念館に隣接する公園）でよく遊んでいるので、牧之記念館があるのは知ってたけど、その中にこんなすごいことがあるなんて今まで知らなかった。牧之さんは、すごい人だと思った。(中略) その牧之さんがいたところに今ほくがいる（住んでいる）ことが不思議な感じがした。

その後もC男からは、自分たちのまち塩沢を自慢に思い、大切にしたいという思いが伝わってくる発言が多く聞かれた。

#### 4 実践を振り返って

本実践では、『かせぐ』をキーワードにして、自分が生まれ、育っている地域―塩沢―の“じまん”を実感し、地域を大切に思う心情を育てることをねらって、実践を重ねてきた。活動の視点として4つの『かせぐ』を構想したが、やはり、3年生段階では、他の『かせぐ』のもととなる『足でかせぐ』の重要性を実感した。3―活動の実際で述べた以外にも、「学校からの帰り道に鈴木牧之が生まれた家があったよ。今までずっと歩いていても気付かなかったけど、発見できたよ」という子どももいた。子ども自らが、探し、見つけ、体験したことは、身近なところに“じまん”があり、こうした環境の中で自分が育っていると感ずることができ、地域を大切に思う心情を育てることに有効であった。

『集団でかせぐ』ことを大切にすることは、学校生活の様々な面でも有効である。3学級82人の力を合わせると大きな活動ができると実感した子どもは、仲間を存在や考えを大切にするようになっている。

『親子でかせぐ』活動は、子どもにとって大きな刺激となった。親子で知っていることを伝え合い、共に調べ、体験することで、一層学習意欲が高まることを実感した。地域を大切に思う家庭で育った子どもは、必ず地域を大切にできる大人に成長することができる。

「夏休みにお父さん、お母さんと一緒に巻機山に登ったよ。とっても疲れたけど、すごい気持ちよかったよ」

「魚野川でお父さんとつりをしたよ。お父さんが、魚野川にいる魚のことをいっぱい教えてくれた」

「おじいちゃんが、稲刈りの手伝いをさせてくれたよ。これが刈った稲だよ。絶対おいしいよ」

など、子や孫に地域のよさを伝えよう、家族から地域のよさを教えてもらおうという気持ちが広がっていることを嬉しく思う。

『手でかせぐ・口でかせぐ』活動は、他の『かせぐ』を支え、補強し、発展させる上で、大変有効であった。活動ごとに、感想をまとめ、発表・話し合いをもったことで、気付き、考えを深め、思いをふくらませることができる。また、書いたこと、話し合ったことをふり返ることで、自己の成長や集団としての高まりを実感することができた。

本実践を通して、4つの『かせぐ』を関連づけながら機能させることで、地域を大切に思う心情を育てることができると実感できたことは、大きな成果であった。

ただし、活動が広がりを見せれば見せるほど、時間的にも、指導・支援体制の面でも不足が生じてくる。本実践においても、支援体制が十分整わず、見学先の変更を余儀なくされる場面があった。活動の展開を見越し、可能な限り早めに対策していくことが必要である。

活動構想の視点の『親子でかせぐ』は、『地域ぐるみでかせぐ』に発展させることができる。本実践では、地域人材の活用が十分ではない面があった。時間的・物理的な制約を受ける面はあるが、地域人材を更に活用することで、より一層充実した実践になると考える。

たった半年の実践ではあるが、子どもたちが自ら課題をもち、次々と活動を創り上げていくなど、一昨年の実践とは違う手応えを感じている。この活動は、現在進行形である。1年間の息長い取組の中で、子どもたちに塩沢を大切に思える気持ちが更にどれだけ育っていくか楽しみである。

#### 〈参考文献〉

- 1) 文部科学省 小学校学習指導要領, 2003年
- 2) 新潟県教育委員会 「総合的な学習の時間」のガイドライン, 2001年